

医療的ケア児等コーディネーターの活用の促進について

1. 背景・目的

- 県では、国のカリキュラムに基づいた医療的ケア児等コーディネーター養成研修を、平成 30 年度から実施している。
- コーディネーターの人数は増えてきたものの、当部会でも複数の委員より「活動状況や委託方法について市町村ごとにばらつきがある」などの意見をいただいている。
- コーディネーターの役割については、令和 6 年 3 月「医療的ケア児等支援者の研修等に関する調査研究（こども家庭庁：令和 5 年子ども・子育て支援等推進調査研究事業）」において、期待する役割が整理されたところである。
- ついては市町村や関係機関に、県としてコーディネーターの活用の在り方を明確に示していくための対応について、御意見を伺う。
(R6.4 時点 市町村配置人数：382 人／修了者数：574 人)

2. 課題

- コーディネーターを活用するにあたり、市町村が感じている課題について調査したところ、以下の課題が挙げられた。
- 市としてコーディネーターをどう活用するのか、体制が定まっていない。コーディネーターが個々に相談を受けて対応しており、連携体制ができていない。
 - 医療的ケア児等コーディネーターとは何か、どんな役割や機能が求められているか、今後の効果的な活用の仕組みなど、地域の行政・医療・福祉・教育の関係者の中で理解と啓発が足りない。
 - 現状対応した事例が少ないため、毎回手探りしながら必要な支援を検討している。
 - 全て行政職員の為、人事異動などにより、継続した支援が行えない可能性がある。
 - 医療・福祉・保健との連携の機会が少なかった学校との連携が難しい。
 - コーディネーター同士が集まる場がなく、事例の情報共有等ができていない。
 - 市内の医療的ケア児全員の把握が出来ておらず、どのように活動してよいのか不明。
 - 看護職員の配置等の人員面及びバリアフリー等の設備面から、医療的ケア児及びその家族のニーズに対応できる社会資源が不足している。

3. 課題の背景として考えられること

- 市町村が支援体制を構築できない背景
 - ・ コーディネーターの役割の理解が不十分
 - ・ 支援体制整備を主体的に行う立場にあるという認識が不足
 - ・ 支援の事例が不足
- コーディネーターの活動が困難となる背景
 - ・ コーディネーターの存在と役割に対する関係機関の周知・理解が不足
 - ・ コーディネーター同士の横のつながりの不足
 - ・ 医療的ケア児を受け入れられる事業所等、社会資源の不足

4. 県の対応案

- 市町村による支援体制の構築を推進するために以下の取組を行う。
 - ・ コーディネーターの役割と本県の目指す姿を改めて周知する。
 - ・ 市町村の支援体制に関する好事例を収集し展開する。
- コーディネーターの活動が円滑に進むよう以下の取組を行う。
 - ・ コーディネーターの存在と役割を関係者に周知できるよう、リーフレット等を作成し、配布する。
 - ・ 医療的ケア児支援センター及び医療的ケア児等アドバイザーをはじめとした県の取組を改めて周知する。（地域で解決できない課題に関する相談、地域の事業所等において医療的ケア児の受入れが進められるよう助言や研修の実施等）
 - ・ 医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修及び各医療的ケア児支援センターが開催する研修や会議等の場を活用し、コーディネーターのスキル向上と横のつながりづくりに資する取組を継続する。